

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	都市環境気候図小委員会		主 査 名：渡辺浩文 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：佐土原聡
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2008 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・学会直販「都市・建築計画のための気候学入門」の刊行 ・都市環境気候図実用のためのワークショップ・シンポジウムを、自治体・コンサルタント・住民らとともに開催する ・都市環境気候図標準化の可能性を広く学会員・多分野関連研究者と議論する場として、シンポジウムを開催する。 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有 石田秀樹(北海道東海大学) 渡辺浩文(主査：東北工業大学) 平野勇二郎(国立環境研究所) 足永靖信(建築研究所) 成田健一(日本工業大学) 岩井一博(信州大学) 芝池英樹(京都工芸繊維大学) 鳴海大典(幹事：大阪大学) 吉田篤正(大阪府立大学) 宮崎ひろ志(姫路工業大学) 竹林英樹(幹事：神戸大学) 清田清良(広島工業大学) 依田浩敏(近畿大学) 堤純一郎(琉球大学) ほか協力委員数名		
設置 WG (WG 名：目的)	都市環境気候図標準化検討 WG 都市環境気候図作成のための学会規準を集中的に検討し、まずは標準化の可能性を検討する。		
2006 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 公開勉強会「都市環境・都市設備研究の最前線」3/6 開催予定 <div style="text-align: right; margin-right: 20px;">参加者数 名</div> 「都市環境・都市設備研究の最前線」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. ワークショップの成果を技術報告集に投稿し採択された 2. 3/6 公開勉強会にて小委員会活動に関する他研究者からの意見聴取を予定
委員会活動の問題点・課題	1. 刊行予定書籍の発行遅れ 2. 小委員会開催回数が少ないこと

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。
- * 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>C</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>成果報告自己評価欄に記載したとおり、活動成果の一部を本会技術報告集に採択されたこと、および関連研究者の意見聴取の場として公開勉強会にて発表する(3/6 予定)ことは、本小委員会の今年度の大きな成果であると考えられる。</p> <p>しかし一方で、主査の本務多忙・委員が全国各地に散在し会合を持ちにくいといった理由により、本年度の実質的活動はやや低調なものに留まった。懸案の出版物の刊行についても遅れが強く懸念される。</p> <p>この現状を打開する方策としては、例えば、小委員会設置目的に掲げる活動項目(目標)について SWG 的に組織化し検討スケジュールの管理を図ること、現在のところ事務連絡にのみ利用される ML を積極的に利用し、ML での議論を小委員会・WG・SWG の正式の議論の場と位置づけることも必要と思われる(議事録が必要か?)。</p> <p>いずれにせよ本小委員会の開設残余期間はあと2年間であるので、より効果的な、かつ各委員の負担感の少ない委員会運営を心掛ける必要がある。詳細は年度末に開催される小委員会の場で議論することとしたい。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。